



# 東日本大震災東北被災地復興支援 「ちばの絆」プロジェクト推進会議について

— 千葉氏の縁で陸前高田と酒々井を結ぶ —

「ちばの絆」プロジェクト推進会議 発起人 鎌田 行平（酒々井町）

## プロジェクトのきっかけ

2013年6月6日から8日にかけて、「酒々井町災害時要援護者支援のための東北スタディーツアー」が開催され、酒々井町の社会福祉関係者、行政関係者18名は、被災地気仙沼、陸前高田市の社会福祉施設を訪問し、激甚災害への備えを学習しました。6月8日、被災地を後にする直前の最後に、陸前高田市議会議員佐々木さんのご案内で、被災状況を視察、最後に、多くの市民が逃げ込んで助かり、また逃げ遅れて落命した小高い丘、「本丸公園」に上りました。

ここは地元の人もいわれをよく知らないようですが、陸前高田のルーツともいえる中世高田城址であることがつい最近判明しました。それも高台移転候補地となったための行政調査によって判明したということです。城址頂上に本丸跡があり、そこに「ここは千葉安房守広綱の居館」とかかれた看板を見つけて一同は慄然としました。ご案内の議員さんも城主の名前はそのときまで知らなかったということです。知らずに案内された酒々井町の住民は、同じ千葉氏の居城本佐倉城をルーツにもつ町の住民です。

長い時間と遠い距離をこえて実現した歴史的な奇跡の対面に、参加者一同宿命的なものを感じつつ帰町しました。後に資料によれば、高田城は、本佐倉に本拠を置く千葉宗家の分家として、1200年代頃から当地に拝領した、奥州千葉の拠点であったそうです。

## 「ちばの絆」基本構想

この数奇な縁を得て、我々は同じ中世千葉氏の居城をルーツに持つ街同士が、このたびの歴史的な大災害からの復興をめざす姉妹都市としての絆を

取り結び、継続的支援ができないかと考え、以下の基本構想を提案することになりました。

### 1. 復興の精神的象徴としての「高田城址」整備

被災地の被害は甚大であり、小さな酒々井町の支援では到底追いつくものではありません。できない支援を口だけで言うのはきわめて無責任でもあり、せめて、復興の精神的象徴を、千葉氏ゆかりの高田城址に「メモリアルパーク」として整備することぐらいの支援をしたいと考えます。おそらくあの城郭からいえば、本佐倉城を上回るほど完璧に保存された中世居城城跡であり、国も史跡として保存する方向に動くはずで

す。住宅地の再建をいそぐ地元の意向や心情がまず最優先されますが、街のコーポラスアイデンティティーの確立もまた重要です。古来より神社仏閣などの建物には、その中心に「芯柱＝神柱」をおいた。それが建物の持つすべてのエネルギーの中心と考えられていました。まちづくりにも同様なことがいえて、精神的中心、象徴の存在が人々の気力を奮い起こさせるものです。すべて流された陸前高田で唯一そそり立ち、そして多くの人々の命を救った高田城址は、それにもっともふさわしいと考えます。千葉ゆかりの人々の手で、何とか高田城址に復興のモニュメントをつくるお手伝いをさせていただきたいと思

### 2. 新しい支援と連帯のかたち

もしこの構想が実現すれば、これは復興支援に関する新しいかたちです。従来は様々な個人や団体が、被災地に支援を行うかたちでした。地方自治の原則からいえば、地方自治体は基本的に他の自治体の行政に支援はしません。しかし、もし高田城址の復興に対して、千葉氏ゆかりの自治体が支援をするとすれば、従来の地方自治にかたちを

越えるものとなります。

3.11の震災以前、私たちは現代文明を疑うこともなくその上に安住してきました。「公共」というものは国や自治体がやるものと決めつけ、自らの努力を怠ってきました。しかし3.11は、この幻想を木っ端みじんに打ち砕き、大規模災害では国も自治体も機能麻痺することを思い知らされました。そして今後の震災リスクに関する研究を見る限り、今後も日本全国でこのような惨禍が続くだろうといわれています。そんな国難に直面して、「これは国のやること」「これは行政の仕事」「自治体のことはその自治体で」などとのんきなことをいっていたら、我々は自らをも守れないでしょう。「やろう」と思ったものが「やるべきこと」をなして、お互いに助け合わなければならないと考えます。同じ千葉の名の城主をいただいた城下町の住民同士が、それを縁と思い、意気を感じて支援に立ち上がる姿を広く国民に示すことは、国難を生きる日本人にとっての一つの問題提起となるでしょう。

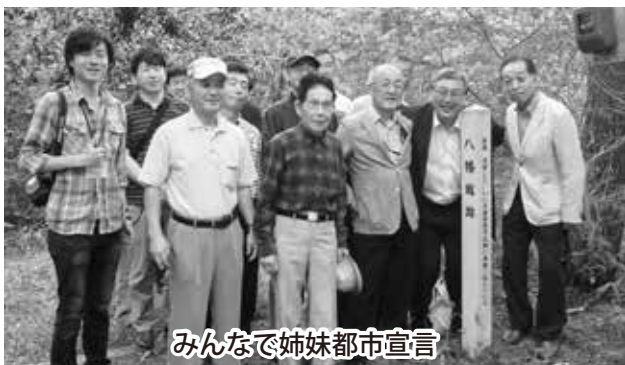
## 具体的に推進していききたい事業

陸前高田市との密接な連携のもと、以下の事業に取り組みます。

1. 高田城址の調査、研究、保全事業の支援
2. 城址周辺に「復興モニュメント」を整備する事業
3. そのためのプロジェクトや基金の設立

## 今日までの経過報告

- 2013年6月のスタディーツアー終了後、参加者を



みんなで姉妹都市宣言

中心に「発起人会」を立ち上げて、当面の活動方針を相談しました。ミニ講座的な学習会を積み重ねながら、次年度に正式に「ちばの絆」プロジェクト推進会議を設立することとしました。

- 10月27日、早速「陸前高田と千葉氏」と題した学習会を開催しました。国立歴史民俗博物館の平川館長、明治大学文学部の石川教授、酒々井町教育委員会の木内生涯学習課長より、それぞれ陸前高田と千葉県酒々井町における千葉氏の歴史について報告いただきました。当日は陸前高田より議員や研究者の方も参加し、新聞で取り上げられたこともあり、予想を大きく上回る参加がありました。
- 2013年11月6～7日、まずは代表団4名により、陸前高田市現地調査を行いました。目的は、地元における高田城趾研究者たちと交流するとともに、高田城趾を踏査することで巨大な中世山城の跡を踏査しました。
- 2014年1月18日、3月1日と連続で「千葉氏の系譜…下総から奥州へ」と題した連続学習会を開催しました。千葉氏研究の第一人者である文学博士、丸井敬司さんを講師に招いて、千葉氏が奥州に所領を得た経緯を学習しました。
- 5月11日、酒々井町中央公民館にて「ちばの絆」プロジェクト推進会議設立総会と陸前高田市の池邊のみさんを招いての記念講演会を開催しました。

今後、陸前高田市との密接な連携を元に、千葉氏ゆかりの地から息の長い復興支援の取り組みを続け、最終的には「復興支援姉妹都市宣言」を実現していきたいと考えています。多くの千葉県民の皆さんのご支援をお願いします。



駅から望む高田城趾